



フォールバックブリッジングの設定

- [機能情報の確認, 1 ページ](#)
- [フォールバックブリッジングの制約事項, 1 ページ](#)
- [フォールバックブリッジングに関する情報, 2 ページ](#)
- [フォールバックブリッジングの設定方法, 4 ページ](#)
- [フォールバックブリッジングのデフォルト設定, 17 ページ](#)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェアリリースの **Bug Search Tool** およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

フォールバックブリッジングの制約事項

- スイッチには、最大 32 個のブリッジグループを設定できます。
- 1つのインターフェイス（SVI またはルーテッドポート）が所属できるブリッジグループは 1 つだけです。
- スイッチに接続されている個別のブリッジドネットワーク（トポロジの上で区別されるネットワーク）ごとに、1つのブリッジグループを使用してください。
- フォールバックブリッジングをプライベート VLAN が設定されたスイッチに設定しないでください。

- IP（バージョン4とバージョン6）、アドレス解決プロトコル（ARP）、逆ARP（RARP）、LOOPBACK、フレームリレーARP、共有STPパケットを除くすべてのプロトコルは、フォールバックブリッジングされます。



(注) フォールバックブリッジングをサポートするのは、Cisco Catalyst 3560-CX スイッチのみです。フォールバックブリッジング CCP は IP Services ライセンスを実行している Catalyst スイッチでのみサポートされます。

関連トピック

- [VLAN ブリッジスパンニングツリーのプライオリティの変更、（6 ページ）](#)
- [インターフェイスのプライオリティの変更、（8 ページ）](#)
- [パス コストの割り当て、（9 ページ）](#)
- [hello BPDU 間のインターバルの調整、（11 ページ）](#)
- [転送遅延時間の変更、（13 ページ）](#)
- [最大アイドル時間の変更、（14 ページ）](#)

フォールバックブリッジングに関する情報

フォールバックブリッジングの概要

フォールバックブリッジングを使用すると、スイッチは複数の VLAN またはルーテッドポート（特に1つのブリッジドメイン内で複数の VLAN に接続されている VLAN またはルーテッドポート）をまとめてブリッジングできます。フォールバックブリッジングを行うと、スイッチでルーティングおよび転送されないトラフィックや、DECnetなどのルーティングできないプロトコルに属するトラフィックが転送されます。VLANブリッジドメインは、スイッチ仮想インターフェイス（SVI）によって表されます。（VLAN が関連付けられていない）一連の SVI およびルーテッドポートは、ブリッジグループを形成するように設定（グループ化）できます。SVI はスイッチポートの VLAN を、ブリッジグループを形成するように設定（グループ化）できるルーティングポート（VLAN が関連付けられていない）へのインターフェイスの1つとして表します。SVI はスイッチポートの VLAN を、システム内のルーティング機能またはブリッジング機能へのインターフェイスの1つとして表します。1つの VLAN に関連付けることができる SVI は1つだけです。VLAN 間のルーティング、VLAN 間でルーティングできないプロトコルのフォールバックブリッジング、またはスイッチと IP ホストの接続を実現する場合にだけ、VLAN に SVI を設定してください。ルーテッドポートはルータ上のポートと同様に機能する物理ポートですが、ルータには接続されていません。ルーテッドポートは特定の VLAN と関連付けられておらず、VLAN サブインターフェイスをサポートしていませんが、通常のルーテッドポートのように動作します。

ブリッジグループは、スイッチ上のネットワークインターフェイスの内部構造です。ブリッジグループが定義されているスイッチの外側にあるブリッジグループ内では、スイッチングされる

トラフィックを識別する目的でのブリッジグループの使用はできません。同じスイッチ上のブリッジグループは、異なるブリッジとして機能します。つまり、スイッチ上の異なるブリッジグループ間で、ブリジッドトラフィックおよびブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) は交換されません。

フォールバックブリッジングを使用しても、ブリッジングされている VLAN のスパニングツリーは縮小できません。各 VLAN には、独自のスパニングツリー インスタンスと、ループを防止するためにブリッジグループの一番上で動作する個別のスパニングツリー (別名 VLAN ブリッジスパニングツリー) があります。

ブリッジグループが作成されると、スイッチは VLAN ブリッジスパニングツリー インスタンスを作成します。スイッチはブリッジグループを実行し、ブリッジグループ内の SVI およびルーテッドポートをスパニングツリーポートとして処理します。

ネットワーク インターフェイスをブリッジグループに格納する理由は、次のとおりです。

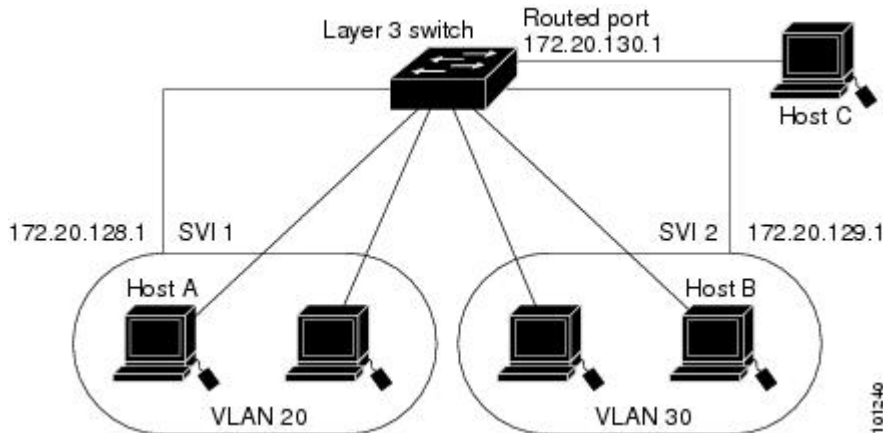
- ブリッジグループを構成するネットワーク インターフェイス間でルーティングされない全トラフィックをブリッジングするため。宛先アドレスがブリッジテーブルに格納されているパケットは、ブリッジグループ内の単一のインターフェイス上で転送されます。宛先アドレスがブリッジテーブル内に格納されていないパケットは、ブリッジグループ内のすべての転送インターフェイス上でフラッディングされます。ブリッジグループで送信元 MAC アドレスが学習されるのは、このアドレスが VLAN 上で学習された場合だけです (この逆は成り立ちません)。スタックメンバで学習されたアドレスは、スタック内のすべてのスイッチで学習されます。
- 接続されている LAN 上で BPDU を受信 (場合によっては送信) することにより、スパニングツリー アルゴリズムに参加するため。設定されたブリッジグループごとに、個別のスパニングツリー プロセスが動作します。各ブリッジグループは個別のスパニングツリー インスタンスに参加します。ブリッジグループは、メンバー インターフェイスだけが受信する BPDU に基づいて、スパニングツリー インスタンスを確立します。VLAN がブリッジグループに属していないポートに着信したブリッジ STP BPDU は、VLAN のすべての転送ポートでフラッディングされます。

例：フォールバックブリッジネットワーク

次の図に、フォールバックブリッジングネットワークの例を示します。このスイッチには、SVI として 2 つのポートが設定されています。これらの SVI は異なる IP アドレスを持ち、2 つの異なる VLAN に接続されています。さらに、もう 1 つのポートが独自の IP アドレスを持つルーテッドポートとして設定されています。これらの 3 つのポートがすべて同じブリッジグループに割り当てられている場合は、これらのポートが異なるネットワークや異なる VLAN にあっても、スイッチに接続されているエンドステーション間で非 IP プロトコルフレームを転送できます。

フォールバックブリッジングを機能させるために IP アドレスをルーテッドポートや SVI に割り当てる必要はありません。

図 1: フォールバックブリッジングネットワークの例



フォールバックブリッジングの設定方法

ブリッジグループの作成

一連の SVI またはルーテッドポートにフォールバックブリッジングを設定する場合は、これらのインターフェイスをブリッジグループに割り当てる必要があります。同じグループ内のすべてのインターフェイスは、同じブリッジドメインに属します。各 SVI またはルーテッドポートは、1 つのブリッジグループだけに割り当てることができます。



(注) 保護ポート機能とフォールバックブリッジングとの併用はできません。フォールバックブリッジングがイネーブルである場合、ある保護ポートから、別の VLAN 内にある同じスイッチ上の別の保護ポートにパケットが転送される可能性があります。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **bridgebridge-groupprioritynumber**
4. **interfaceinterface -id**
5. **bridge-groupbridge-group**
6. **show running-config**
7. **copy running-config startup-config**
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Switch> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します (要求された場合)。</p>
ステップ 2	<p>configureterminal</p> <p>例 :</p> <pre>Switch# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>bridgebridge-groupprioritynumber</p> <p>例 :</p> <pre>Switch(config)# bridge 10 protocol vlan-bridge</pre>	<p>ブリッジグループ番号を割り当て、ブリッジグループで実行する VLANブリッジスパニングツリープロトコルを指定します。 ibm および dec キーワードはサポートされていません。</p> <p>bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。最大 32 個のブリッジグループを作成できます。</p> <p>フレームは同じグループ内のインターフェイス間でだけブリッジされます。</p>
ステップ 4	<p>interfaceinterface -id</p> <p>例 :</p> <pre>Switch(config)# interface gigabitethernet3/0/1</pre>	<p>ブリッジグループを割り当てるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。次のいずれかのインターフェイスを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルーテッドポート : no switchport インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して、レイヤ 3 ポートとして設定された物理ポートです。 • SVI : interface vlanvlan-id グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して作成された VLAN インターフェイスです。 <p>(注) ルーテッドポートや SVI に IP アドレスを割り当てることができますが、これは必須ではありません。</p>
ステップ 5	<p>bridge-groupbridge-group</p> <p>例 :</p> <pre>Switch(config)# bridge-group 10</pre>	<p>ブリッジグループ番号を割り当て、ブリッジグループで実行する VLANブリッジスパニングツリープロトコルを指定します。 ibm および dec キーワードはサポートされていません。</p> <p>bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。最大 32 個のブリッジグループを作成できます。</p> <p>フレームは同じグループ内のインターフェイス間でだけブリッジされます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。
ステップ 7	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。
ステップ 8	end	特権 EXEC モードに戻ります。

スパニングツリーパラメータの調整

特定のスパニングツリーパラメータのデフォルト値が不適切な場合は、このパラメータを調整する必要があります。スパニングツリー全体に影響するパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。インターフェイス固有のパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge-group** インターフェイスコンフィギュレーションコマンドを使用します。



(注) スパニングツリーパラメータの調整は、スイッチおよびSTPの機能に精通しているネットワーク管理者だけが行ってください。計画が不十分なまま調整を行うと、パフォーマンスの低下を招くことがあります。スイッチングに関する資料としては、IEEE 802.1D仕様が適しています。

VLANブリッジスパニングツリーのプライオリティの変更

ルートスイッチの候補として別のスイッチと同等のレベルにあるスイッチには、VLANブリッジスパニングツリーのプライオリティをグローバルに設定できます。このスイッチがルートスイッチとして選択される可能性を設定することもできます。スイッチのプライオリティを変更するには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **bridgebridge-groupprioritynumber**
4. **end**
5. **show running-config**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configureterminal 例： Switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	bridgebridge-groupprioritynumber 例： Switch(config)# bridge 10 priority 100	SwitchのVLANブリッジスパニングツリープライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • number には、0 ~ 65535 の数字を入力します。デフォルトは 32768 です。この値が低いほど、Switchがルートとして選択される可能性が高くなります。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>startup-config</code>	

関連トピック

[フォールバックブリッジの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

インターフェイスのプライオリティの変更

ポートのプライオリティを変更できます。2つのスイッチがルートスイッチの候補として同等のレベルにある場合は、レベルに差が付くようにポートプライオリティを設定します。インターフェイスのプライオリティ値が低いスイッチが選択されます。インターフェイスのプライオリティを変更するには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. `enable`
2. `configureterminal`
3. `interfaceinterface-id`
4. `bridge-groupbridge-groupprioritynumber`
5. `end`
6. `show running-config`
7. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code> 例： <code>Switch> enable</code>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<code>configureterminal</code> 例： <code>Switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>interfaceinterface-id</code>	

	コマンドまたはアクション	目的
	例： Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1	
ステップ 4	bridge-group <i>bridge-group</i> priority <i>number</i> 例： Switch(config)# bridge-group 10 priority 20	スイッチの VLAN ブリッジ スパニングツリー プライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • number には、0 ~ 255 の値を入力します（増分値は 4）。この値が低いほど、スイッチのポートがルートとして選択される可能性が高くなります。デフォルト値は 128 です。
ステップ 5	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。
ステップ 7	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

関連トピック

[フォールバックブリッジの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

パスコストの割り当て

各ポートにはパスコストが割り当てられています。規定では、パスコストは 1000/（接続された LAN のデータ速度）の値を Mbps 単位で表したものです。パスコストを割り当てるには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **interfaceinterface-id**
4. **bridge-groupbridge-grouppath costcost**
5. **end**
6. **show running-config**
7. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configureterminal 例： Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interfaceinterface-id 例： Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1	
ステップ 4	bridge-groupbridge-grouppath costcost 例： Switch(config)# bridge-group 10 path-cost 20	ポートのパス コストを割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ～ 255 です。 • cost には、0 ～ 65535 の数字を入力します。値が大きいくほど、コストは大きくなります。 • 10 Mb/s の場合、デフォルトのパス コストは 100 です。 • 100 Mb/s の場合、デフォルトのパス コストは 19 です。 • 1000 Mb/s の場合、デフォルトのパス コストは 4 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。
ステップ 7	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

関連トピック

[フォールバックブリッジの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

BPDU 間隔の調整

hello BPDU 間のインターバルの調整

スパニングツリーの各スイッチには、個々の設定に関係なく、ルートスイッチの hello BPDU インターバル、転送遅延時間、および最大アイドル時間パラメータが採用されています。

hello BPDU 間のインターバルを調整するには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **bridgebridge-grouphello-timeseconds**
4. **end**
5. **show running-config**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Switch> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します (要求された場合)。</p>
ステップ 2	<p>configureterminal</p> <p>例 :</p> <pre>Switch# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>bridgebridge-grouphello-timeseconds</p> <p>例 :</p> <pre>Switch(config)# bridge 10 hello-time 5</pre>	<p>hello BPDU 間のインターバルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • seconds には、1 ~ 10 の数字を入力します。デフォルトは 2 です。
ステップ 4	<p>end</p>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>
ステップ 5	<p>show running-config</p> <p>例 :</p> <pre>Switch# show running-config</pre>	<p>入力を確認します。</p>
ステップ 6	<p>copy running-config startup-config</p> <p>例 :</p> <pre>Switch# copy running-config startup-config</pre>	<p>(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。</p>

関連トピック

[フォールバックブリッジの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

転送遅延時間の変更

転送遅延時間は、ポートでスイッチングがアクティブになってから実際に転送を開始するまでの時間です。この間にトポロジ変更情報の受信が行われます。

転送遅延時間を変更するには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **bridgebridge-groupforward-timesseconds**
4. **end**
5. **show running-config**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configureterminal 例： Switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	bridgebridge-groupforward-timesseconds 例： Switch(config)# bridge 10 forward-time 10	転送時間の間隔を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • seconds には、4 ~ 200 の数字を入力します。デフォルトは 20 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

関連トピック

[フォールバックブリッジングの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジングのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

最大アイドル時間の変更

指定時間内にルートスイッチから BPDU が受信されない場合は、スイッチはスパニングツリートポロジを再計算します。

最大アイドル時間 (最大エージングタイム) を変更するには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **bridgebridge-groupmax-agesecds**
4. **end**
5. **show running-config**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例： Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	bridge bridge-group max-ages seconds 例： Switch(config)# bridge 10 max-age 30	ルート スイッチから BPDU をヒアリングするためにスイッチが待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • seconds には、6 ~ 200 の数字を入力します。デフォルトは 30 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

関連トピック

[フォールバックブリッジの制約事項, \(1 ページ\)](#)

[フォールバックブリッジのデフォルト設定, \(17 ページ\)](#)

インターフェイスでのスパニングツリーのディセーブル化

2つの任意のスイッチングサブネットワーク間にループのないパスが存在する場合は、一方のスイッチングサブネットワークで生成されたBPDUの影響が他方のサブネットワーク内のデバイスに及ばないようにできます（ただし、ネットワーク全体に及ぶスイッチングは可能です）。たとえば、スイッチングLANサブネットワークがWANによって分離されている場合は、BPDUのWANリンク間移動を禁止できます。

ポート上でスパニングツリーをディセーブルにするには、次の手順を実行します。この手順は任意です。

手順の概要

1. **enable**
2. **configureterminal**
3. **interfaceinterface-id**
4. **bridge-groupbridge-grouppriorityspanning-disabled**
5. **show running-config**
6. **copy running-config startup-config**
7. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configureterminal 例： Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interfaceinterface-id 例： Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1	
ステップ 4	bridge-groupbridge-grouppriorityspanning-disabled 例： Switch(config)# bridge group 10 spanning-disabled	ポート上でスパニングツリーをディセーブルにします。 bridge-group には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 5	show running-config 例： Switch# show running-config	入力を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Switch# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。
ステップ 7	end	特権 EXEC モードに戻ります。

フォールバックブリッジのモニタリングおよびメンテナンス

表 1: フォールバックブリッジのモニタリングおよびメンテナンスのコマンド

コマンド	目的
clear bridge <i>bridge-group</i>	学習したエントリを転送データベースから削除します。
show bridge <i>[bridge-group] group</i>	ブリッジグループの詳細を表示します。
show bridge <i>[bridge-group] interface-id mac -address verbose</i>	ブリッジグループ内で学習した MAC アドレスを表示します。

フォールバックブリッジのデフォルト設定

表 2: フォールバックブリッジのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
ブリッジグループ	未定義であるか、またはポートに割り当てられていません。VLANブリッジSTPは定義されていません。
動的に学習されたステーションに対するスイッチからのフレーム転送	イネーブル
スイッチプライオリティ	32768
ポートプライオリティ	128

機能	デフォルト設定
ポート パス コスト	<ul style="list-style-type: none">• 10 Mb/s : 100• 100 Mb/s : 19• 1000 Mb/s : 4
hello BPDU インターバル	2 秒
転送遅延時間	20 秒
最大アイドル時間	30 秒

関連トピック

[VLAN ブリッジ スパニング ツリーのプライオリティの変更, \(6 ページ\)](#)

[インターフェイスのプライオリティの変更, \(8 ページ\)](#)

[パス コストの割り当て, \(9 ページ\)](#)

[hello BPDU 間のインターバルの調整, \(11 ページ\)](#)

[転送遅延時間の変更, \(13 ページ\)](#)

[最大アイドル時間の変更, \(14 ページ\)](#)